

世界中から平和へのメッセージ

高鳥 愛奈

私は、今回広島に行つて、平和記念式典に参加させついただき、まちょうな体験をすることができました。

私が一年生のときにも広島の原爆ドームと記念資料館に行つたことがありますか、その時はただただこわくて、しゃがみこんだり、耳をふさいだりして、戦争から逃げてしまひました。でも六年生になつた今、この事業を

通じて戦争についつ学び、向き合うことができたと思ひます。ただこわいわけではなく、もさべつに殺されては、た罪のな人々の苦しみや、戦争の本当のおやろしさを知りました。

一九四五年、八月六日に一発の原子爆弾が広島に投下されました。一瞬にして多くの命がうばわれました。熱線、爆風、放射線、そして放射線物質をふくんだ黒い雨が、人々をおそいへくるしめました。資料館の中のかべ

に世界中の人々からの言葉が映し出されたり

るところがありました。そこには、

「私たちは、世界平和をさすくなることを、約束しなければなりません。」

「悲しみが私の胸をしめつけます。」などたくさん言葉がありましたが。世界中の人々も戦争について、深く考えていくと、ことや、世界平和を目指していることを知り、私も、うれしく思いました。

この事業をきっかけに、もう一回戦争について

ア学び、そして学んだことを回りの人伝えたいです。それから、世界平和のために、自分にできることは何か考えなければいけないと思いました。世界中の人々と核兵器のない平和な世界をさすいて行きたいと思します。